



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2021年6月5日 No.325

夏季手当シリーズ⑪ 6月4日 第2回団体交渉開催 I 夏季手当2.8ヶ月要求の満額回答を強く求める！

<経営側の基本スタンス>

- ・会社の発展こそが社員還元のさらなる充実、働きがいの向上、社員・家族の幸福の実現につながる。社員一人一人が健全な危機感を持って積極的なチャレンジ、自己啓発活動などに取り組んでいくことが不可欠である。
- ・会社発足後、初めて大幅な赤字を計上する厳しい経営状況であり、健全な危機感を持ち、支給水準については例年に比べて極めて慎重に判断しなければならない。

【組合側】

- ・「働きがい」は結果であり、社員・家族が経済的にも精神的にも安心を実感することで「働きがいがある」といえる。
- ・会社のいう「自己実現」とはJR東日本の社員としての「自己実現」であり、JR労働者には消費者、生活者としての「自己実現」もある。社員は生活のために、賃金・手当を得るために働いている。

<経営側>

- ・賃金が「働きがい」の一つの要素となっていることは認識しているが、それだけではない。様々な研修や制度、働き方に対して積極的に投資を行い、自己実現などの社員の成長を含めて着実にステップアップすることで会社の成長につながり、社員への還元につながる。

【組合側】

- ・社員は人生の大半をこの会社にあずけている。その社員・家族を守るのは会社の責務だ。

社員は生活のために働いている！会社の発展と同時に生活の安心・安定も必要だ！

<経営側>

- ・投資についてはしっかり取り組む。種をまいて育てなければ会社の未来はない。安心して働いてもらうために環境整備は大事である。
- ・コストコントロールは人件費だけではない。修繕費や営業費なども減らしている。業務のすみ分けを行い、構造改革をしていく。

【組合側】

- ・根拠ある投資は赤字下でも否定はしないが、会社の持続的成長のため「だけ」の投資ではダメ。施策を担う社員への投資が行わなければ、社員と会社の持続的な成長はない。
- ・職場環境整備などにも投資が行われているが、投資の「押し売り」はダメ。実際に利用する社員の声に耳をかたむけるべきである。
- ・業務委託駅の無人化や車両清掃の契約解除など、社員の労働が強化されている実態がある。

「会社の持続的成長のための投資」と「社員への投資」は両輪である！